

グリーティング

詩人、那珂太郎さんの「音の歳時記」は、各月それぞれをよく似合う音（擬音語）で表していて、その月や季節を思い感じることができます。

5月の章は “新緑の木立にさわさわと風がわり 青麦の穂波もさわさわと鳴る…” そう五月はさわさわです。

自宅2階の窓の向こうにもみじの木があります。樹齢かれこれ35年、高さは6m以上にもなり、何の手入れもしないものですから枝も葉も伸び放題、窮屈そうに育っています。今はすっかり夏の様相です。

お天気の良い日は必ず窓を開けます。心地いい風が入ってきて、たしかにさわさわともみじの葉を吹き抜ける風の音がします。時折鳥の囀りも加わり、家にいながらにしてちょっといい時間をすごせます。

ちなみに10月はかさこそ。紅葉の色づきを楽しみにしていましたが、これからは枯葉のかさこそなる音も待ち遠しくなりそうです。すぐ身近に、自然からの贈り物がいっぱいあり、耳を澄ますと今まで気づかなかった贈り物も見つけることができるのですね。 S.K



このもみじがさわさわ鳴って、5月の風が心地いいのです

技工情報

◎今回は、色調再現性や支台歯から見た材料の選択基準のご説明をします。

◎審美性を考慮した材料の（マテリアル）の選択

1) 色調の再現性からの観点

○陶材焼付鑄造冠、ジルコニア、e-maxにおける、フレームに対するレイヤリング法（築盛法）において色調を再現するのであれば明度、彩度、色相のマッチングのみならず、細やかなキャラクターの再現性において高いレベルでの再現が可能になります。

○フルジルコニアやステイン法によるe.maxクラウンであれば色調の再現はステインのみの対応となってしまうので、色調の再現の自由度は余り高くありません。

2) 支台歯の色調からの観点

・生活歯の場合 目標とするシェードとあまり差がないので、さほど問題はないと思われます。



・失活歯の場合

失活歯特有の変色
メタルポスト
旧補綴物から溶出した金属イオンによる黒ずみ等があります。

